



2025年12月17日、「みやぎSDGs塾」=第5ターム前期2回目の講座が河北新報社で開催され、「標準コース」「実践コース」の参加者が他社の事例をもとに学びを深めました。



それぞれの取り組みを報告し合う参加者

他社の事例から考える

「みやぎSDGs塾 標準コース」受講者らはこの日、リコージャパン

「みやぎSDGs塾 標準コース」は、5回の講座を通して学びと交流を深めるコースです。修了すると「みやぎSDGsアンバサダー」として認定されます。

標準コース

互いに考えを伝え合い、連携の可能性を探る

企業の先進的な取り組みから学ぶ

「みやぎSDGs塾 実践コース」では、「標準コース」を修了した「みやぎSDGsアンバサダー」や、企業のSDGs担当者、自治体職員などが集まって交流を深めています。

事業との同軸化で社会課題解決

今回の「実践コース」では、リコージャパン宮城支社のSDGs活動について、同社の川口智由さんの報告をもとに意見交換しました。



リコージャパン宮城支社で最初の「SDGsキーパーソン」となった川口さん

共有を重視した営業を続けています。近年では、同社の商品が顧客企業の業務効率化や労働環境改善にだけ貢献したか、といった指標を数値化して達成目標を設定するなど、事業を通じて社会課題解決の取り組みを進めています。

SDGsを軸に協働できる

リコージャパン宮城支社は、他社や自治体と連携してSDGsセミナー



リコージャパンの事例報告をもとに意見を交わす「実践コース」参加者

を主催するなど、地域への啓発活動にも力を入れています。「SDGsを共通の課題とすることで、連携の可能性が広がった」と川口さん。「さまざまな人、企業、団体が協働して、それぞれが役割を果たすことが、地域の社会課題の解決につながる。今後は今まで以上に、皆さんと一緒に行動していきたい」と参加者に呼びかけました。

グループトークで交流

講話の後、参加者は、自身や所属企業のSDGs関連の実践についてワークシートに書き出して現状を整理しました。さらに4〜5人のグループに分かれ、書いた内容を互いに発表。他社の事例に対して質問や感想を伝え合うなど活発な交流が見られ、グループトークを通して参加者一人一人がさまざまな気付きを得

参加者の声

対話から気付きを得た

国分東北 佐藤理紗さん

グループトークでは他の参加者と、日常の業務に対する課題意識を共有することができました。また他社の具体的な取り組みを聞き、自身の業務に応用できそうなヒントを得られました。



宮城支社の川口智由さんの講話を聞き、同社のSDGsの取り組み(右記「実践コース」記事参照)について学びました。聴講後、参加者からは弊社もSDGs関連の取り組みを行っているが、その内容が社内ですら共有されていないと感じる。リコージャパンの話や、社内情報共有しながら社員全体の意識を変えていくことが重要だと感じたなどの声がかれました。

たようでした。

「みやぎSDGs塾」のアドバイザーを務める「SDGsとうほく」代表理事の紅邑晶子さんはグループトークの様子を見て、「みやぎSDGs塾」は業種や立場に関係なく語り合える場。ここでの交流をきっかけにして、企業・団体どうし、個人どうしなど連携の可能性を探り、新たな事業や取り組みを一緒に生み出してほしい」と期待を寄せました。

SDGsとうほくコラム

新しいアンテナを立てる

SDGsとうほく 代表理事

紅邑晶子さん



「最近、海洋プラスチックごみのことが気になるんです。うちの商品でもエコ包装がでないかなって、工夫してみようと考えています」

「みやぎSDGsアンバサダー」である松島浦本舗の葛西健太郎さんがこんなことを話してくれました。

「みやぎSDGs Farm」は2021年11月にスタート。その後誕生した「みやぎSDGsアンバサダー」は現在130人ほどです。当初参加される方々のほとんどは「SDGs」という言葉に戦々恐々でしたが、「わたしのSDGs活動宣言」を書くころになり、SDGsは自分ごとになり、仕事にもつな

がるどの意識の変化がおきます。また、「みやぎSDGsアンバサダー」の方々の多くは、葛西さんのようにSDGsという視点で自社の事業で何かできることはないかという可能性を探っています。

皆さんに共通しているのは、新たに「SDGs」というアンテナを立てて、ビジネスを考えているというところ。アンテナを立てることで、従来の組織の在り方やこれまでのルーティンを見直すチャンスをつかんでいるようです。また、これまでとは少し違う有効な情報をキャッチしやすくしているのだと思います。アンバサダーの皆さんのこれからの挑戦が楽しみです。

SDGs Farmから生まれた共創事業

宮城県内に4工場を展開し生コンクリートの製造・販売を行うタイハクは、「みやぎSDGs塾」をきっかけに持続可能な社会づくりに注力しています。月2回の工場周辺の清掃活動「タイハク・クリーンアップデー」や、不要になった作業服のリサイクルの実施、「SDGs推進委員会」を立ち上げ、啓蒙ポスターの掲示やペットボトルキャップの回収を行うなど、多角的な活動を推進しています。

また、県内自治体とのつながりを生かし、コンクリートミキサー車に各自自治体のマスコットキャラクターを貼り付けるなどして地域の魅力を発信する「ラッピングミキサー車プロジェクト」を進めています。プロジェクトで、子どもたちがミキサー車に手を振ってくれ

「はたらくくるま」が運ぶ連携 タイハクのラッピングミキサー車



県内自治体の特産物をPRするラッピングミキサー車

るなど地域との距離が縮まっただけでなく、ドライバーや他の社員にとっても、安全運転の徹底、美化意識の向上、地域に貢献しているという誇りの醸成などに繋がっています。

さらに、国分東北(食品卸)との連携事業の一環として、宮城県南三陸高等学校の学生がデザインしたラッピングを採用するなど、県内の教育機関との連携も深めています。



賛同企業
募集中!!



【申し込み・問い合わせ】
河北新報社営業局
TEL / 022-211-1318
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

第5ターム参加者(敬称略)

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森文広【SKホールディングス】【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩屋】加藤貴伸【環境再生保全機構】【キューアンドエー】柴田知和、成澤勝将【国分東北】佐藤理紗【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼真洋、花村祐太、野口通南【タイハク】山田妃那、及川達也【日建リース工業】加島重信【日本旅行東北】櫻井寛也、渡辺隆太郎【宮城県赤十字血液センター】庄子いくみ【宮城県民共済生活協同組合】田仲俊貴、西條諒佑、久松紗和、石倉新太郎、石田涼香、加藤明日菜【みやぎ生活協同組合】金田志保【ミライトス】鈴木圭介【山一地所】【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚絅学院大学】内田和希【オブザーバー】紅邑晶子、高浦康有

賛同企業・団体・個人



特別協力 SDGsとうほく 協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 オフィス塩屋 WACO CREATE 仙台高等学校 尚絅学院大学SDGsセンター